



## Dominion® KX III

### クイック ステップ ガイド

業界最高のパフォーマンスを誇り、エンタープライズ クラスのセキュアなデジタル KVM (キーボード/ビデオ/マウス) スイッチである、Dominion® KX III をご購入いただき、ありがとうございます。

このクイック セットアップ ガイドでは、KX III のインストール方法と設定方法について説明します。KX III のすべての側面に関する追加情報については、製品に付属している、KX III からアクセス可能なオンライン ヘルプ、または PDF 形式の KX III ヘルプを参照してください。PDF 形式のヘルプは、Raritan の Web サイトの「Firmware and Documentation」セクション (<http://www.raritan.com/support/firmware-and-documentation/>) からダウンロードできます。

### パッケージの内容

各 KX III は、モデルによって、標準 1U または 2U の 19 インチラック マウントシャーシのスタンドアロン製品として出荷されます。

KX III デバイスは、以下の内容で出荷されます。

- 1 - KX III
- 1 - KX III クイック セットアップ ガイド
- 1 - ラックマウント キット
- 2 - AC 電源コード
- 1 - ゴム足 1 組 (4 個、デスクトップ設置用)
- 1 - アプリケーション ノート
- 1 - 保証書

### ラック マウントの安全上のガイドライン

ラック マウントが必要なラリタン製品を使用する場合、以下のことに注意してください。

- 閉め切ったラック環境では、室温より高くなる場合があります。装置で指定された最高動作温度を超えないようにしてください。**仕様**を参照してください。
- ラック内に十分な空気の流れがあることを確認してください。
- 装置をラックにマウントする際は、機械的に安定して搭載されるように注意してマウントしてください。
- 回路に過大電流が流れないよう、装置を電源に接続する際は注意してください。
- 特に、電源タップ (直接接続を除く) など電力供給をはじめとするすべての装置を分岐回路に正しく接地してください。

### ラック マウント

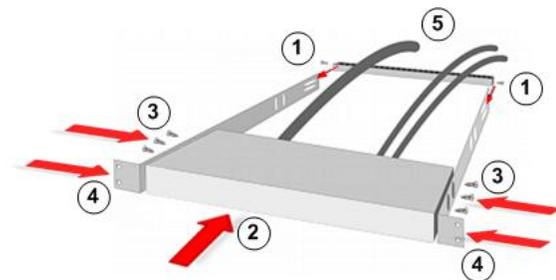
KX III は、標準の 19 インチ機器用ラックの 1U (4.4 cm、1.75 インチ) のスペースに取り付けることができます。

注:ラック マウントの図に描かれている Raritan デバイスは、例として挙げておらず、お使いのデバイスと異なる場合があります。マウント手順は、お使いのデバイスによって特定されます。

### 前向き取り付け

各手順は、前面ラック マウント図に示されている番号に対応しています。

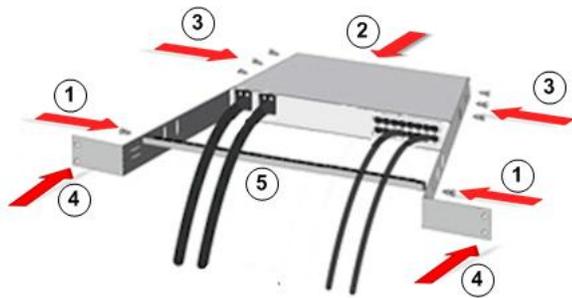
1. 付属の 2 本のネジを使用して側面ブラケットの後端にケーブル支持バーを固定します。
2. KX III を、背面パネルがケーブル支持バーに面した状態で側面ブラケットの間にはめ込み、その前面パネルを側面ブラケットの「耳」に揃えます。
3. 残りのネジ (各側面に 3 本) を使用して、KX III を側面ブラケットに固定します。
4. アセンブリ全体をラックに取り付け、専用のネジ、ボルト、ケージナットなどで側面ブラケットの耳をラックの前面レールに固定します。
5. KX III の背面のパネルにケーブルを接続する場合は、ケーブルをケーブル支持バーに掛けます。



## 後向きの取り付け

各手順は、背面ラック マウント図に示されている番号に対応しています。

1. 付属の 2 本のネジを使用して側面ブラケットの前端に（側面ブラケットの「耳」の近くに）ケーブル支持バーを固定します。
2. KX III を、背面パネルがケーブル支持バーに面した状態で側面ブラケットの間にはめ込み、その前面パネルを側面ブラケットの後端に揃えます。
3. 残りのネジ（各側面に 3 本）を使用して、KX III を側面ブラケットに固定します。
4. アセンブリ全体をラックに取り付け、専用のネジ、ボルト、ケーシングナットなどで側面ブラケットの耳をラックの前面レールに固定します。
5. ユーザ ステーションまたはスイッチの背面のパネルにケーブルを接続する場合は、ケーブルをケーブル支持バーに掛けます。



## 手順 1: ネットワーク ファイアウォールの設定

### TCP ポート 5000

TCP ポート 5000 でのネットワークとファイアウォールの通信を許可すると、KX III へのリモート アクセスが有効になります。

あるいは、別の TCP ポートを使用するよう KX III を設定すると、そのポートで通信できるようになります。

### TCP ポート 443

TCP ポート 443（標準 HTTPS）へのアクセスを許可すると、Web ブラウザ経由で KX III にアクセスできるようになります。

### TCP ポート 80

TCP ポート 80（標準 HTTP）へのアクセスを許可すると、HTTP 要求が自動的に HTTPS にリダイレクトされます。

## 手順 2: KVM ターゲット サーバの設定

### マウスの設定

ずれないマウス モードを利用して、ターゲット サーバでのマウス設定を最小限に抑えることをお勧めします。その他のマウス モードについては、「サポートされているマウスの追加設定」[『http://www.raritan.com/help/kx-iii/v3.0.0/en/index.htm#33105 参照』](http://www.raritan.com/help/kx-iii/v3.0.0/en/index.htm#33105)「サポートされているマウスの追加設定」KX III オンラインヘルプの を参照してください。

このモードでは、ターゲット マウスの加速または速度が異なる値に設定されている場合でも、クライアントとターゲットのカーソルを同期するために絶対座標が使用されます。

このモードは USB ポートを備えたサーバでサポートされ、仮想メディア CIM のデフォルトのモードです。

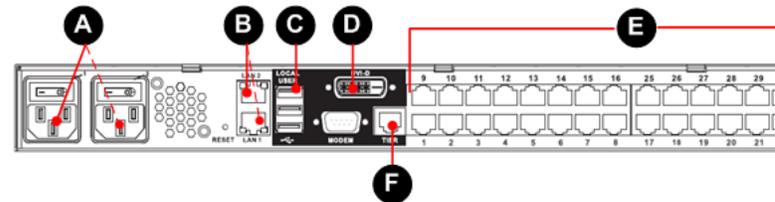
ずれないマウス モード では、仮想メディア CIM を使用する必要があります。

- D2CIM-VUSB
- D2CIM-DVUSB
- D2CIM-DVUSB-DVI
- D2CIM-DVUSB-HDMI
- D2CIM-DVUSB-DP

### ターゲット サーバ画面解像度

サポートされているターゲット サーバ画面解像度については、「KX III でサポートされているターゲット サーバ画面解像度」KX III オンライン ヘルプの を参照してください。

## 手順 3: 装置の接続



### A. AC 電源:

#### ▶ 電源の接続:

1. 付属の AC 電源コードを KX III と AC 電源コンセントに接続します。
2. 二重化電源フェイルオーバー保護を実装するには、付属の 2 つ目の AC 電源コードを KX III と、1 つ目の電源コードとは別の電源コンセントに接続します。

### B. ネットワーク ポート

KX III には、負荷分散用ではなく、フェイルオーバー用の 2 つの Ethernet ポートが用意されています。

デフォルトでは LAN1 のみがアクティブで、自動フェイルオーバーは無効になっています。

接続先の KX III の内蔵ネットワーク インタフェースまたはネットワーク スイッチが利用できなくなった場合に、LAN2 で同じ IP アドレスが使用されるようにするには、ネットワーク フェイルオーバーを有効にします。

▶ **ネットワークに接続するには、以下の手順に従います。**

1. 標準 Ethernet ケーブルを、「LAN1」のラベルの付いたネットワーク ポートから、Ethernet スイッチ、ハブ、またはルータに接続します。
2. オプションの KX III Ethernet フェイルオーバー機能を使用するには、以下の手順に従います。
  - a. 標準 Ethernet ケーブルを、「LAN2」のラベルの付いたネットワーク ポートから、Ethernet スイッチ、ハブ、またはルータに接続します。
  - b. KX III の [Network Configuration] (ネットワーク設定) ページで [Enable Automatic Failover] (自動フェイルオーバーを有効にする) をオンにします。

### C. ローカル ユーザ ポート (ローカル コンソール)

▶ **キーボードおよびマウスを接続するには、以下の手順に従います。**

- USB キーボードおよびマウスを KX III の背面のそれぞれのローカル ユーザ ポートに接続します。

ラックに配置されている管理用およびターゲット サーバ アクセス用の KX III ローカル ユーザ ポートをグラフィカル ユーザ インタフェースを介して使用します。

ローカル ユーザ ポートは、設置およびセットアップの際に必要ですが、それ以降の使用を省略できます。

### D. ローカル DVI-D ポート

標準 DVI ケーブルは、ローカル DVI モニタまたはキーボードトレイ (KX III には非付属) への接続に使用されます。

Raritan の T1700-LED キーボードトレイの DVI ポートに接続します。

必須の DVI-D-VGA コンバータを使用して VGA モニタに接続します。「**VGA モニタへの接続 (オプション)**

『<http://www.raritan.com/help/kx-iii/v3.0.0/en/#32544>参照』を参照してください。

### DVI モニタへの接続

ローカル モニタは、1024 x 768 以上の解像度をサポートする必要があります。

▶ **DVI モニタに接続するには、以下の手順に従います。**

1. USB キーボードおよびマウスを KX III の背面のそれぞれのローカル ユーザ ポートに接続します。

2. DVI ケーブルの片側を KX III の背面の DVI-D ポートに接続します。
3. DVI ケーブルの反対側を DVI モニタの DVI ポートに接続します。

### E. KX III へのターゲット サーバの接続

▶ **ターゲット サーバを KX III に接続するには、以下の手順に従います。**

1. CIM のキーボード、マウス、ビデオの各プラグをターゲット サーバの対応するポートに接続します。
2. CIM を KX III の背面の使用可能なターゲット サーバ ポートに Cat5/5e/6 ケーブルで接続します。

### F. カスケード接続 (オプション)

「**カスケード接続を設定および有効化する**

『<http://www.raritan.com/help/kx-iii/v3.0.0/en/index.htm#33184>参照』を参照してください。を参照してください。

## 手順 4: KX III の設定

以下の手順では、デフォルトのパスワードを変更し、ローカル コンソールで KX III にその IP アドレスを割り当てる必要があります。

他の手順はすべて、ローカル コンソールから実行するか、サポートされている Web ブラウザ経由で KX III のデフォルト IP アドレスを使用して KX III リモート コンソールから実行できます。

Java® 1.7 (以降) または Microsoft .NET® 3.5 (以降) では、KX III を使用する必要があります。

### デフォルト パスワードを変更する

KX III を初めて起動したときは、デフォルトのパスワードを変更する必要があります。

▶ **デフォルトのパスワードを変更するには、以下の手順に従います。**

1. ユニットが起動したら、デフォルトのユーザ名 *admin* およびパスワード *raritan* を入力します。[Login] (ログイン) をクリックします。
2. 古いパスワード *raritan* を入力して、新しいパスワードを入力し、もう一度入力します。

パスワードには、最大 64 文字の英数字と特殊文字を使用できます。
3. [Apply] (適用) をクリックします。確認ページで [OK] をクリックします。

## KX III への IP アドレスの割り当て

### ▶ KX III に IP アドレスを割り当てるには、以下の手順に従います。

- [Device Settings] (デバイス設定) の [Network] (ネットワーク) を選択します。[ネットワーク設定] (Network Settings) ページが開きます。
- KX III デバイスにわかりやすいデバイス名を指定します。  
最大 32 文字の英数字と有効な特殊文字を組み合わせて使用できます。スペースは使用できません。
- 次に、IPv4、IPv6、および DNS を設定します。

## IPv4 の設定

- [IPv4] セクションで、適切な IPv4 固有のネットワーク設定を入力するか選択します。
  - 必要な場合は、[IP Address] (IP アドレス) を入力します。デフォルトの IP アドレスは「192.168.0.192」です。
  - [Subnet Mask] (サブネット マスク) を入力します。デフォルトのサブネット マスクは「255.255.255.0」です。
  - [IP Auto Configuration] (IP 自動設定) ドロップダウン リストで [None] (設定しない) を選択する場合は、[Default Gateway] (デフォルト ゲートウェイ) を入力します。
  - [IP Auto Configuration] (IP 自動設定) ドロップダウン リストで [DHCP] を選択する場合は、[Preferred DHCP Host Name] (優先 DHCP ホスト名) を入力します。
  - [IP Auto Configuration] (IP 自動設定) を選択します。次のオプションを使用できます。
    - [None] (設定しない) (静的 IP) - このオプションを選択した場合は、ネットワークの IP アドレスを手動で指定する必要があります。  
KX III はインフラストラクチャ デバイスであり、IP アドレスは変更されないため、このオプションを推奨します。  
プライマリ Ethernet ポート (またはそのポートに接続されているスイッチ/ルータ) に障害が発生したときに冗長フェイルオーバー機能を確実に作動させたい場合は、このオプションを選択します。プライマリ Ethernet ポートに障害が発生した場合、KX III は、同じ IP アドレスでセカンダリネットワーク ポートにフェイルオーバーされるため、中断が生じることはありません。
    - [DHCP] - DHCP サーバから一意の IP アドレスとその他のパラメータを取得するために、ネットワークに接続しているコンピュータ (クライアント) によって Dynamic Host Configuration Protocol が使用されます。  
このオプションを選択した場合、ネットワーク パラメータは DHCP サーバによって割り当てられます。  
DHCP を使用する場合は、[Preferred host name] (優先ホスト名) を入力します (DHCP のみ)。最大 63 文字まで使用できます。
- 次に、IPv6 や DNS を設定します。

## IPv6 の設定

- IPv6 を使用する場合は、[IPv6] セクションで、適切な IPv6 固有のネットワーク設定を入力するか、選択します。
  - [IPv6] チェックボックスをオンにしてセクション内のフィールドを有効にし、デバイスの IPv6 を有効にします。
  - [Global/Unique IP Address] (グローバル/一意の IP アドレス) を入力します。これは、KX III に割り当てられる IP アドレスです。
  - [Prefix Length] (固定長) を入力します。これは、IPv6 アドレスで使用されるビット数です。
  - [Gateway IP Address] (ゲートウェイ IP アドレス) を入力します。
  - [Link-Local IP Address] (リンク - ローカル IP アドレス)。このアドレスは、デバイスに自動的に割り当てられ、近隣ノードを検出する場合や、ルータが存在しない場合に使用されます。[Read-Only] (読み取り専用)
  - [Zone ID] (ゾーン ID)。アドレスが関連付けられているデバイスを識別します。[Read-Only] (読み取り専用)
  - [IP Auto Configuration] (IP 自動設定) オプションを選択します。
    - [None] (設定しない) (静的 IP) - このオプションを選択した場合は、ネットワークの IP アドレスを手動で指定する必要があります。  
KX III はインフラストラクチャ デバイスであり、IP アドレスは変更されないため、このオプションを推奨します。  
プライマリ Ethernet ポート (またはそのポートに接続されているスイッチ/ルータ) に障害が発生したときに冗長フェイルオーバー機能を確実に作動させたい場合は、このオプションを選択します。プライマリ Ethernet ポートに障害が発生した場合、KX III は、同じ IP アドレスでセカンダリネットワーク ポートに切り替わるため、中断が生じることはありません。  
[None] (設定しない) が選択されている場合は、[Network Basic Settings] (ネットワーク基本設定) の次のフィールドが有効になります。([Global/Unique IP Address] (グローバル/一意の IP アドレス)、[Prefix Length] (固定長)、[Gateway IP Address] (ゲートウェイ IP アドレス)) が有効になり、IP アドレスを手動で設定できるようになります。
    - [Router Discovery] (ルータ検出) - このオプションを使用して、直接接続されるサブネットにのみ適用される [Link Local] (リンク ローカル) を超える [Global] (グローバル) または [Unique Local] (一意ローカル) を意味する IPv6 アドレスを自動的に割り当てます。
- 次に、DNS を設定します。

## DNS の設定

- [DHCP] が選択され、[Obtain DNS Server Address] (DNS サーバ アドレスを取得) が有効になっている場合は、[Obtain DNS Server Address Automatically] (DNS サーバ アドレスを

自動的に取得)を選択します。DNS サーバ アドレスが自動的に取得されると、DHCP サーバが提供する DNS 情報が使用されます。

2. [Use the Following DNS Server Addresses] (次の DNS サーバ アドレスを使用) を選択する場合は、[DHCP] が選択されているかどうかにかかわらず、このセクションに入力されたアドレスが、DNS サーバへの接続に使用されます。

[Use the Following DNS Server Addresses] (次の DNS サーバ アドレスを使用) を選択する場合は、次の情報を入力します。これらのアドレスは、停電によりプライマリ DNS サーバ接続が切断された場合に使用されるプライマリおよびセカンダリ DNS アドレスです。

- a. [Primary DNS Server IP Address] (プライマリ DNS サーバ IP アドレス)
- b. [Secondary DNS Server IP Address] (セカンダリ DNS サーバ IP アドレス)

3. 完了したら [OK] をクリックします。

これで、KX III デバイスはネットワークにアクセスできます。

## ターゲット サーバの命名

### ▶ ターゲット サーバに名前を付けるには、以下の手順に従います。

1. まだすべてのターゲット サーバを接続していない場合は、接続します。
2. [Device Settings] (デバイス設定) の [Port Configuration] (ポート設定) を選択し、名前を付けるターゲット サーバの [Port Name] (ポート名) をクリックします。
3. サーバの名前を入力します。  
最大 32 文字の英数字と特殊文字で指定します。
4. [OK] をクリックします。

## 電源の自動検出の指定

KX III には二重化電源が搭載されています。

両方の電源が使用されている場合は、どちらも KX III で自動的に検出され、それぞれのステータスが通知されます。

さらに、[Power Supply Setup] (電源設定) ページの [PowerIn1 Auto Detect] (PowerIn1 自動検出) と [PowerIn2 Auto Detect] (PowerIn2 自動検出) のチェックボックスがどちらも自動的にオンになります。

1 つの電源しか使用していない場合は、使用されている電源のみの自動検出を有効にすることができます。

### ▶ 使用中の電源の自動検出を有効にするには、以下の手順に従います。

1. [Device Settings] (デバイス設定) の [Power Supply Setup] (電源設定) を選択します。[Power Supply Setup] (電源設定) ページが開きます。

2. 電源入力を 1 番目の電源 (デバイス背面の左端の電源) に接続している場合は、[PowerIn1 Auto Detect] (PowerIn1 自動検出) チェック ボックスをオンにします。
3. 電源入力を 2 番目の電源 (デバイス背面の右端の電源) に接続している場合は、[PowerIn2 Auto Detect] (PowerIn2 自動検出) チェック ボックスをオンにします。
4. [OK] をクリックします。

どちらかのチェックボックスがオンで、電源入力のみが接続されている場合は、デバイス前面の電源 LED が赤色で点灯します。

## 日付/時刻の設定 (オプション)

必要に応じて、日付と時刻を設定します。

日付と時刻の設定は、LDAPS が有効になっている場合に SSL 証明書の検証に影響します。

### ▶ 日付と時刻を設定するには、以下の手順に従います。

1. [Device Settings] (デバイス設定) の [Date/Time] (日付/時刻) を選択します。[Date/Time Settings] (日付/時刻の設定) ページが開きます。
2. [Time Zone] (タイムゾーン) ドロップダウン リストから適切なタイムゾーンを選択します。
3. 夏時間用の調整を行うには、[Adjust for daylight savings time] (夏時間用の調整) チェックボックスをオンにします。
4. 日付と時刻の設定に用いる方法を選択します。
  - [User Specified Time] (ユーザによる時刻定義) - 日付と時刻を手動で入力する場合には、このオプションを使用します。[User Specified Time] (ユーザによる時刻定義) オプションを選択した場合は、日付と時刻を入力します。時刻は、hh:mm の形式を使用します (24 時間制で入力します)。
  - [Synchronize with NTP Server] (NTP サーバと同期) - 日付と時刻をネットワーク タイム プロトコル (NTP) サーバと同期するには、このオプションを選択します。
5. [Synchronize with NTP Server] (NTP サーバと同期) オプションを選択した場合は、以下の手順に従います。
  - a. [Primary Time server] (プライマリ タイム サーバ) の IP アドレスを入力します。
  - b. [Secondary Time server] (セカンダリ タイム サーバ) の IP アドレスを入力します。〈オプション〉

---

注:[Network] (ネットワーク) ページの [Network Settings] (ネットワーク設定) で [DHCP] が選択されている場合、NTP サーバ IP アドレスは、デフォルトでは DHCP サーバから自動的に取得されます。

NTP サーバ IP アドレスを手動で入力するには、[Override DHCP] (DHCP を無効にする) チェックボックスをオンにします。

6. [OK] をクリックします。

## 手順 5: KX III リモート コンソールの起動

Microsoft .NET® や Java Runtime Environment® がインストールされており、ネットワーク接続機能を備えたワークステーションから KX III リモート コンソールにログインします。

### ▶ KX III リモート コンソールを起動するには、以下の手順に従います。

- サポートされている Web ブラウザを起動します。
- 次のどちらかを入力します。
  - URL: `http://IP-ADDRESS` (Java ベースの Virtual KVM Client を使用する場合)  
または
  - `http://IP-ADDRESS/akc` (Microsoft .NET ベースの Active KVM Client の場合)

`IP-ADDRESS` は、KX III に割り当てられた IP アドレスです。また、HTTPS を使用するか、管理者によって割り当てられた、KX III の DNS 名 (適用可能な場合) を使用することもできます。
- 常に、HTTP の IP アドレスから HTTPS の IP アドレスにリダイレクトされます。
- ユーザ名とパスワードを入力します。[Login] (ログイン) をクリックします。

### リモートからのターゲット サーバのアクセスと制御

KX III の [Port Access] (ポート アクセス) ページには、すべての KX III ポートの他に、接続中のターゲット サーバ、およびその状態と可用性が表示されます。

### KX III からターゲット サーバへのアクセス

#### ▶ ターゲット サーバにアクセスするには、以下の手順に従います。

- KX III の [Port Access] (ポート アクセス) ページで、アクセスするターゲット サーバのポート名をクリックします。[Port Action] (ポート アクション) メニューが開きます。

#### Port Access

Click on the individual port name to see allowable operations.  
0 / 4 Remote KVM channels currently in use.

View By Port	View By Group	View By Search	Set Scan
▲ No.	Name		
1	Dominion_KX3_Port1		
2	DP-D Connect port13		
3	Dominion-KX2_Port3		
	Windows XP SP3		

- [Port Action] (ポート アクション) メニューの [Connect] (接続) をクリックします。[KVM] ウィンドウが開き、ターゲットへの接続が表示されます。

### ターゲット サーバを切り替える

#### ▶ KVM ターゲット サーバを切り替えるには、以下の手順に従います。

- ターゲット サーバを使用しているときに、KX III の [ポート アクセス] ページを開きます。
- アクセスするターゲットの [ポート名] をクリックします。[ポート アクション] メニューが表示されます。
- [ポート アクション] メニューの [切り替え元] を選択します。選択した新しいターゲット サーバが表示されます。



### ターゲット サーバの切断

#### ▶ ターゲット サーバを切断するには、以下の手順に従います。

- [Port Access] (ポート アクセス) ページで、切断するターゲットのポート名をクリックし、表示される [Port Action] (ポート アクション) メニューの [Disconnect] (切断) をクリックします。

#### または

- KVM Client ウィンドウを閉じます。

## 手順 6: キーボード言語の設定 (オプション)

注: 英語 (アメリカ)/国際 キーボードを使用している場合は、この手順を実行する必要はありません。

英語 (アメリカ) 以外の言語を使用する場合は、該当する言語のキーボードを設定する必要があります。

また、クライアント マシンおよび KVM ターゲット サーバのキーボード言語を同じにする必要があります。

キーボード レイアウトを変更する方法の詳細については、お使いのオペレーティング システムのマニュアルを参照してください。

## 手順 7: SSL 証明書の作成およびインストール

各 KX III デバイスに固有の SSL 証明書をインストールすることを強くお勧めします。

このセキュリティ ベスト プラクティスにより、Java® 警告メッセージが抑制され、中間者攻撃を受けにくくなります。

また、今後の Java バージョンやブラウザ バージョンから KX III デバイスへのアクセスも阻止されにくくなります。

SSL 証明書の作成およびインストールについては、KX III オンライン ヘルプの「**SSL 証明書**

<http://www.raritan.com/help/kx-iii/v3.0.0/en/index.htm#11942> を参照してください。

## その他の情報

KX III™ および Raritan 製品ラインナップ全体の詳細については、Raritan の Web サイト ([www.raritan.co.jp](http://www.raritan.co.jp)) を参照してください。技術的な問題については、Raritan のテクニカル サポート窓口にお問い合わせください。世界各地のテクニカル サポート窓口については、Raritan の Web サイトの「Support」セクションにある「Contact Support」ページを参照してください。

Raritan の製品では、GPL および LGPL の下でライセンスされているコードを使用しています。お客様は、オープン ソース コードのコピーを要求できます。詳細については、Raritan の Web サイトにある「Open Source Software Statement」(<http://www.raritan.com/about/legal-statements/open-source-software-statement/>) を参照してください。